



世界を変える

変化は、突如としては起こりません。たくさんの小さな選択を通じて起こります。思いやりの行為の一つひとつを通じて、私たちは人の人生を変えます。ライオンズクラブとレオクラブの一つひとつを通じて、私たちは地域社会を変えます。

**地域社会を変える時、
私たちは世界を変えます。**

自分が変化そのものになる

皆の力を引き出す

人を引き上げる — それが彼女のやり方。

優れた教師、学校管理職、心理学者、スモールビジネス経営者など、さまざまな顔を持つパティ・ヒル。しかし、何を大事にしているのかと尋ねられた時、彼女の答えにこの華々しい経歴は登場しない。

「私のこの地上での目的は、他の人が力を発揮できるように助けること。それができているか、常に自問しているんです」。

自らに使命と課しているのは、人のポテンシャルを見出し、その人が輝けるような環境を作ってあげることだ。「いつも人の善い部分に目を向けます」。そう彼女は言う。

相手が夢を叶えられるように、自分にできることをする。その信条が、キャリアの一步一步を形作ってきた。高校の特別支援学級を教えるように言われ、同意したヒルは、すぐに難聴者教育を主眼とする修士課程に登録した。

駆け出しの教師だった頃、耳の聞こえない叔父のエディから聞いた。教育を受けるため、遠い全寮制の学校に行くのがとても大変だったこと。そこまでも、学校で手話を使うことが許されなかったこと。叔父のような生徒たちに、もっと良い教育を与えたかった。

ろう学生の教師として働き始めたある日、学校の心理士から、生徒のテストの結果を見せられる。そこには、「視覚能力は高いが、言語能力の得点は低い」とあった。思わず、手話でこう答えた。「手話を使ってもいいくせに!」

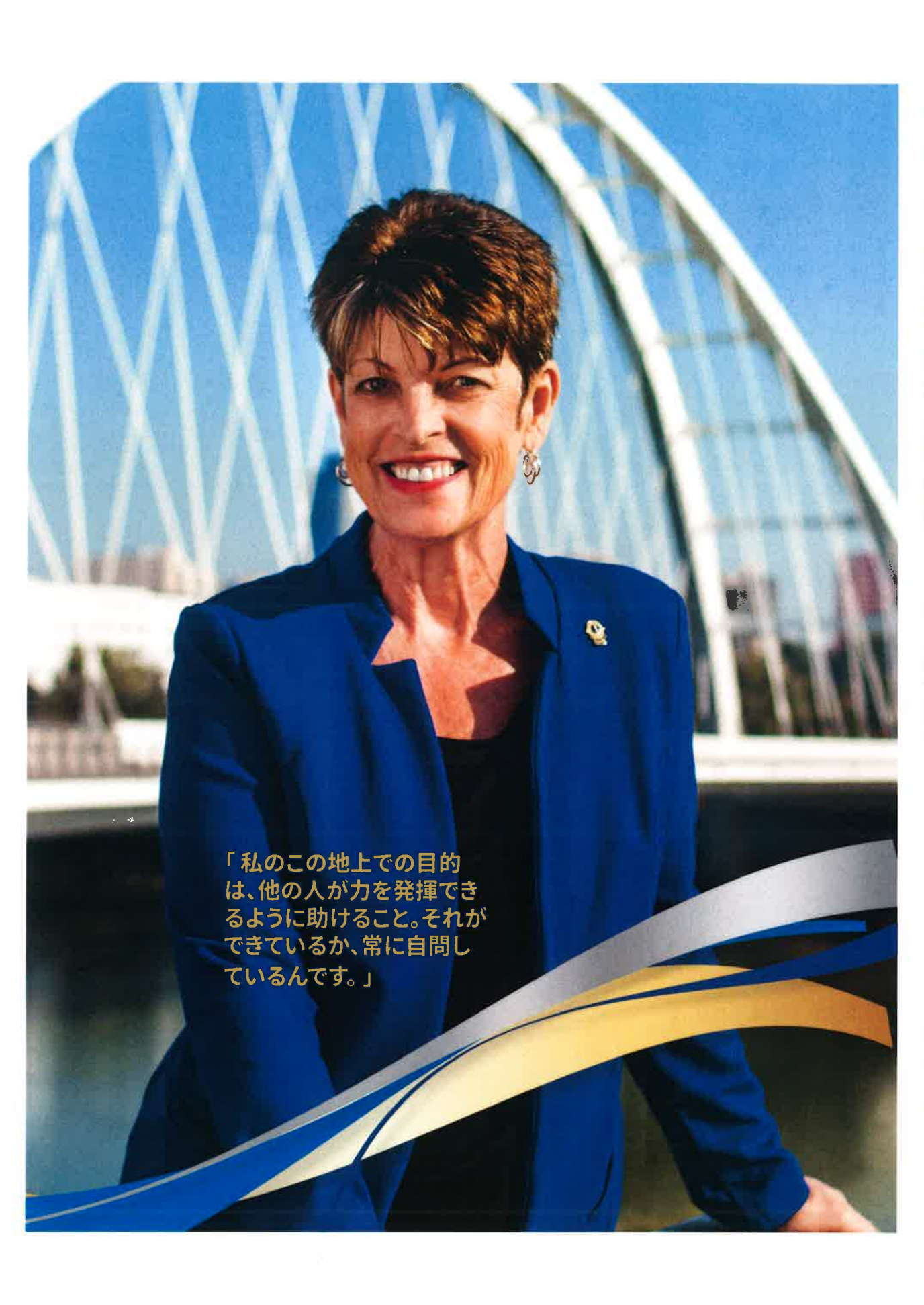
生徒たちにとって主な伝達手段である手話も使わせてもらえなかったら、実力を出せなくて当たり前だ。彼らには叔父のエディと同じ目に合ってほしくないと考えたヒルは、生徒をもっと正当に評価できるようにするため、心理学の授業を取り始めた。

授業はやがて博士号へと変わり、彼女は公認心理士となった。

カナダのアルバータ州エドモントンにある、重度の発話・言語発達障害を抱える子供たちのための特別学校で、校長を務めた時期もある。さらにその知識と経験を生かして始めたコンサルタント業も、創業から40年以上が経った。児童・青少年とその家族のためのよりよいプログラムを設計・実施できるよう、政府機関を支援している。

パティ・ヒルはその生涯を、世界をよりよい場所にすることに捧げてきた。その過程で彼女が見つけたのが、ライオンズだった。

いや、ライオンズが彼女を見つけたのだ。

A woman with short brown hair, wearing a blue blazer over a black top, is smiling warmly. She is standing in front of a modern building with a white, geometric lattice facade. The background is a clear blue sky. In the foreground, there are several overlapping, curved bands in shades of blue, white, and yellow.

「私のこの地上での目的
は、他の人が力を発揮でき
るように助けること。それが
できているか、常に自問し
ているんです。」

自分が変化そのものになるう

世界をよりよい場所にするため

ある日、ヒルのビジネスパートナーの配偶者がライオンズのメンバーであることが分かった。地区のライオンズが人工内耳を必要とする人のためのチャリティ事業を企画した際、聴覚障害者のコミュニティに造詣の深い人の助けが必要となり、パティにお呼びがかかったのだ。もちろん、彼女は喜んで手伝った。

その後、ヒルがヘリテージスクールの初代校長に就任すると、ライオンズは恩返しを申し出る。「必要なものはありませんか？」

ライオンズの協力は有り難かった。しかし、この先は連絡してくることもないだろうと思っていた。

しかし、ライオンズからの連絡は続いた。

しまいには、ライオンズに入会してほしいと言う。諦める様子もない。

生活は間違いなく多忙を極めていた。自分のビジネスと、校長としての仕事に加え、博士号の修了目前。おまけに第一子を妊娠していた。それでも、断ることはできなかった。

1990年、ヒルは、エドモントン・ホスト・ライオンズクラブに入会した。まもなく、そこがただの地域のクラブではないことに気づく。世界のほぼすべての国で活動する、彼女のクラブと同じようなクラブの、国際的な集まりの一部だったのだ。ライオンズは、いつも彼女がやりたいと思っていたこと、すなわち、「世界をよりよい場所にする」ことを実現するためには最高の場所だった。

当時取り組んだある事業から、ライオンズの底力を思い知らされることになる。エドモントンのある病院には、小児科専用の手術室がなかった。そのため、子供の手術が必要になるたびに、手術機材を手動で調整しなければならない。この作業が、子供たちや親にとってただでさえ辛い体験を、さらに複雑で不快なものにしていた。クラブは、小児専用の手術室を作るのにどれぐらい経費がかかるのか問い合わせた。

返ってきた答えは、30万ドル。

「それでも、私たちはやりました」とヒルは言う。LCIFの支援を受け、クラブで全額集めたのだ。「この時、ライオンズには真の影響力があるのだと知りました」。

初めての複合地区大会では、この影響力がエドモントンにとどまらないことに気づいた。

会場を歩いて周り、ライオンズがその年に行った様々な事業の展示を見たり、交わされる会話を聞いたりするにつけ、その規模の大きさを実感した。この時、自分は想像よりずっと大きな団体の一端を担っているのだと気づかされた。

「そういうことだったのね」と彼女はつぶやいた。ライオンズが変えていたのは、地域社会だけではなく、世界全体だったのだ。

世界を変えることは、国際会長となった今、ヒルが目指すところだ。

「私たちの任務は、よりよい世界を築くこと。それが私のあらゆる判断の根拠です。」





世界を変える

こんな言葉があります。「大切なのは目的地ではなく、道のりだ」。世界を変えることは、果てなき旅のようなものです。そこには折り返し地点も、終わりもありません。しかし、始まりはあります。

小さな社会奉仕を一つ行うたびに、私たちは変化に一步近づきます。はじめの一步を踏み出すかどうかは、自分次第です。雨水がバケツを満たすように、私たちはほんのひと雫ずつであっても世界を変えられます。

実際のところ、私たちは皆、決断を一つ下すたびに、世界を変えているのです。真の変化は、私たちがどのような変化を起こしたいのかを意識したときに起こります。私たちの人生に、そして他の人の人生に、明るい変化を起こそうとする時、私たちは世界に「善」をもたらします。



ライオンズは100年以上にわたり、世界を変える役割を果たしてきました。奉仕事業を一つ実施することに、寄付を一回行うごとに、私たちは地域社会のポジティブな変化に貢献しています。私たちがバケツを満たす姿を見て、地域社会も私たちと共に立ち上がります。

私たちは皆つながっているのです。そのつながりに目を向けた瞬間、国境も壁も消え去ります。世界的な変化という、途方もないことのように感じるか



もしれません。しかし、物事にはつねに始まりがあります。その始まりの場所はここ。始まりの時は今なのです。

私たちの世界は、美しい場所です。雨を降らせましょう。一滴ずつ、バケツを満たしましょう。周りの人にもバケツを満たしてもらいましょう。日々休みなく、時に大きな奉仕、時に小さな奉仕をもって、世界をすべての人にとってより住みよい場所にしましょう。



「ライオンズやレオにな
ったらどれだけ社会に貢
献できるか。世界がそれを
本当に理解したら、皆がライ
オンズに殺到するでしょう。私
たちのやっていることを皆に見て
もらい、自分にも世界が変えられ
るのだと知ってもらわねばなりません。」

自分が変化そのものになる

変化は一步ずつ始まる

私たちは、一人の暮らし、一つの協力関係、一つの地域社会から、世界を変えていきます。

「はじめの一步」の一例をご紹介します。

もっとエコでクリーンな環境を目指す。

自然環境の保護と改善は、地域住民を巻き込んで行える、優れた社会奉仕活動です。天然資源を守りよみがえらせるお手伝いをすることで、具体的に世界を変えることができます。今すぐ、大胆に行動しましょう。

世界にあなたのストーリーを伝える。

マーケティングのテクニックを身につければ、自分たちが何者で、どんな活動をしているのか、世界に伝えやすくなります。SNS、ローカルメディア、オンラインマーケティング、オフラインマーケティングなどが、ストーリーを伝える新しい可能性を広げてくれます。所属クラブにスポットを当て、地域の人たちに、ライオンズやレオの仲間に加わり一緒に変化を起こすよう呼びかけましょう。

奉仕の力をフルに引き出す。

人は、意義のある取り組みに参加したいと考えています。思い切った奉仕目標を立て、新会員を起用してさらなるインパクトのチャンスを生み出しましょう。クラブがすべての人を分け隔てなく受け入れられるよう、体制を整えましょう。

さらに大きな奉仕を実現する。

私たちの財団が、単独でやることよりもっと多くのことを実行可能にしてくれます。LCIFのおかげで、私たちは大きな夢を描き、真の意味で世界を変える事業を実施できるのです。ですから、LCIFを支援し、LCIFの支援を受けましょう。



自分を変化そのものになろう

自分を信じて

世界を変えるためには、まず、私たちが
「世界は変えられる」と信じなければなりません。

以下は、この先に待ち構える課題に
立ち向かうためのステップです。

勇気を持つこと。

あなたが取り組む奉仕においても、その他の活動においても、難しそうだからといって怯まないでください。あなたならできる。そして、他のライオンズも助けてくれます。ですから、思い切って、はじめの一歩を踏み出してください。

未来に投資すること。

未来に投資するのは誰にとっても重要なこと。そして、若者特有の立場が、物事を変えるために役立つこともあります。地域社会が直面する様々な課題に取り組む時、若者にも議論に参加してもらえば、よりよい解決策を見つけられます。ライオンズと一緒に奉仕するよう、次世代のグローバルリーダーたちを誘いましょう。

協力すること。

チームでやれば最高の結果が出ます。地域の有力者や、他の奉仕団体、そしてお互いと協力し、地域社会が抱える最大の課題に取り組みましょう。コラボレーションは、変化を加速させます。

率先すること。

ライオンズとレオは、模範を示します。皆で地域社会を大切に思いやりをゴールに見据えたらどんな未来を実現できるかを、世界に提示するのです。率先して行動すれば、周りもついてきます。



「私はライオンズを信じています。レオを信じています。
その一步一步を支えるために、私はここにいます。」





We Serve

世界を変える

変化そのものになろう。